

## 紹介：「静岡の大規模自然災害の科学」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2022-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 仁美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00028586">http://hdl.handle.net/10297/00028586</a>

## 紹 介

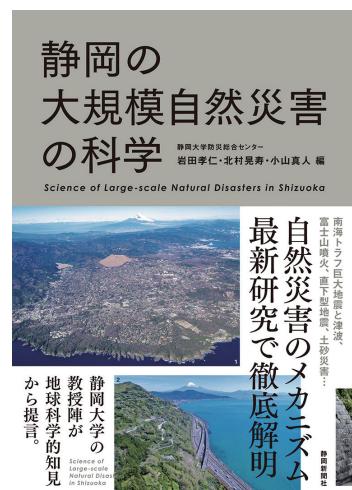
### 「静岡の大規模自然災害の科学」

静岡大学防災総合センター 岩田孝仁・北村晃寿・小山真人 編著

静岡新聞社, 2020年3月21日, ISBN978-4-7838-0555-7C0044

A5版, 本文(文献・索引を含む) 256p. +カラーグラビア4p.

定価 1600円+税



静岡県内で過去に起きた、あるいは、これから起きると予測される大規模自然災害を、科学的に検証し、防災につなげようというコンセプトで編集された書籍が出版された。これまでに個々の事象について解説したものは数多く見られたが、県内周辺の自然災害を「防災」というキーワードでつなげ、地球科学的にまとめ上げた書籍は初めてではないかと思う。

本書は、四部構成で、それぞれの部に複数の章が設けられている。各章は、静岡大学防災総合センターに所属または関係する科学者たちが執筆し、それぞれの専門的立場からまとめ上げたものとなっている。その道の第一人者や新進気鋭の若手科学者が、最新の理論と観測により、県内周辺の災害を地球科学的に解説していくところが魅力的だ。

本書内容をさらに詳しく見ていく。

第Ⅰ部では、静岡と密接に関連する南海トラフ巨大地震を考える上で転機となった、2011年東北地方太平洋沖地震と巨大津波を取り上げた二つの章からなる。ここでは、東北地方太平洋沖地震の概要、東北地方太平洋沖地震・貞觀地震による津波災害やその記録となる津波堆積物などを科学的に解説する。

第Ⅱ部「静岡県の地震・津波」は、五つの章からなる。静岡県の複雑な地質背景、海溝型巨大地震を起こす南海トラフ沿いのすべり帯のメカニズム、県内で進行中の地殻変動、駿河トラフの延長線上にある富士川河口断層帯とその周辺の地質構造や地震リスク評価、静岡県を襲った巨大津波の痕跡などがそれぞれ解説され、県民の疑問に応えている。

第Ⅲ部「富士山・伊豆東部火山群の噴火」は、富士山・伊豆東部火山群の噴火の歴史やその特徴、ハザードマップを活用した防災対策、富士山と伊豆東部火山群のマグマの性質などが五つの章で語られている。火山のマイナス面だけではなく火山の恵みも積極的に意識し、火山と向き合って生きる姿勢を説く文が印象的だ。

第Ⅳ部「静岡県の自然災害と防災」も、五つの章からなる。1976年東海地震説発表以来の、静岡県における地震防災対策・危機管理対策が具体的に述べられている。編著者の一人である岩田氏は、その専門性を生かし静岡県の地震対策を一手に担ってきた人物である。ここに書かれている静岡県の地震防災対策・危機管理対策の変遷は、岩田氏の取り組みの歴史そのものといってよい。

章と章の間には、気軽に読めるコラムがあり、各章で述べられた事柄を補足し理解を助けてくれる。

また、巻末には、章中で述べられた論説の根拠となる文献が一覧にしてある。さらに深く知りたいと思う読者は、これらの文献を当たることでより理解が深まろう。

あえて注文を付けるとすれば、著者によって日本周辺のプレートの名称に違いがある点だ。例えば、北アメリカプレートとオホーツクプレート、ユーラシアプレートとアムールプレート等である。プレート同士の関係が分かっている者にとっては、特に違和感がないが、初めての方には少々分かりにくい。違う名で記載するならば、注釈等でその関係性を解説することが適切であろう。また、図に書かれた文字が小さかったり、背景と被ってしまい鮮明でなかったりして読みづらい箇所が、いくつか見られる。これは、文献から引用した図が縮小されたり、カラー原図が白黒化されたりしたせいであろう。これらの図を詳細に検討したいのであれば、原文献や関連するホームページ内の図を利用するのが良いと思われる。次版の際に検討していただきたい事柄である。

本書は、地球科学の入門書としても役立つ。県内の防災に携わる関係者のほか、地球科学を学ぶ学生や地球科学に興味を持つ一般の方々、とりわけ静岡県地学会の会員諸氏に読んでいただきたい書物である。

松本仁美（静岡大学教育学部地学教室支援員）